

スクールガード・リーダーの概要

○ 概要

平成17年度から、警察官OB等のスクールガード・リーダー※ が各学校を巡回し、警備のポイント等の指導や学校や通学路で子どもたちを見守る学校安全ボランティア(スクールガード)の養成・研修などを行う事業を実施

※スクールガード・リーダー

警察官OB等に委嘱し、学校の防犯体制及び学校安全ボランティア(スクールガード)の活動に対して専門的な指導を行う者

※平成17・18年度は委嘱事業、平成19・20年度は委託事業(全額国庫補助)

平成21年度から「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」(補助事業(1/3補助))に統合

平成23年度に学校支援地域本部事業など4事業とメニュー統合し、「学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業」の取組として計上

※平成21年度までは、都道府県・指定都市が対象。平成22年度から、中核市も対象

○ スクールガード・リーダー配置数の推移

平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度 (予定)
2,832人	2,986人	1,771人	1,221人	1,770人

【目標値】

現行の教育振興基本計画において、「小学校におけるスクールガード・リーダーを5校に1人程度の割合で配置することを目指す。」ことが盛り込まれている。 → 4,500人程度

○ 各地方公共団体独自の取組として、スクールガード・リーダーと同様の活動を行っている事例

<事例1>

学校の安全体制に対する指導・助言、学校毎に開催するスクールガード養成講習会での指導・助言、情報交換会での活動報告を行うほか、児童に対する安全教室等での講話や登下校の指導、「地域安全MAP」を作成する際の指導・支援を行う。

<事例2>

児童の登下校時における校区内の巡回・見守り活動等の安全指導を行うほか、地域社会全体で学校安全に取り組む体制づくりの支援、校区内の保護者や地域住民による見守り活動協力者との連携を図り、見守り時の注意点についての指導を行う。

<事例3>

小学校区を中心に定期的な巡回や、教職員、地域のボランティア等に対する警備のポイント等についての具体的な指導、情報交換等を行うほか、学校安全対策会議において、見守り活動の機能強化へ向けたコーディネートを行う。